

野菜の生産に使う生分解性資材 ～使い終わったら酵素処理ですぐに分解～

開催日時

令和6年3月8日(金)

10:00～16:00 《受付開始 9:30》

開催場所

秋葉原コンベンションホール

東京都千代田区外神田1丁目18-13

秋葉原ダイビル

JR秋葉原駅(電気街口)から徒歩1分

参加無料
事前申込制
(定員150名)

プログラム

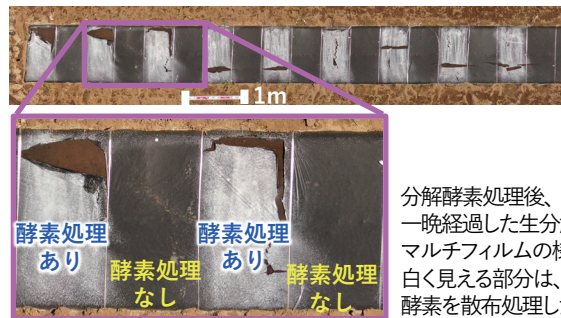
午前の部(10:00～11:30)

(敬称略)

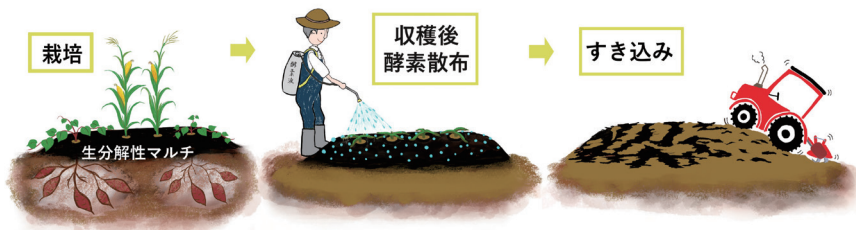
- ・農業生産におけるプラスチック排出抑制と生分解性マルチの導入
(農林水産省 農産局 農業環境対策課：高木葉子)
- ・葉野菜栽培における生分解性マルチ利用による省力化の実証
(長野県佐久農業農村支援センター：林彦彦)
- ・ポスターセッション1
生分解性資材・およびこれら資材を利用した栽培事例の紹介

午後の部(12:30～16:00)

- ・化学業界が取り組むGX -Sustainabilityに貢献するバイオプラスチック-
(三菱ケミカルグループ株式会社：佐野浩)
- ・生分解性プラスチックの分解を促進する酵素
-その特徴と製品化に必要な技術- (農研機構：山下結香)
- ・酵素パワーで生分解性マルチの分解促進
(農研機構：植田浩一)
- ・かんしょ栽培における効果的な分解酵素の活用方法
(茨城県農業総合センター：人見拓哉)
- ・スイートコーンの抑制栽培および2作1回施肥栽培における
生分解性マルチと分解酵素の活用方法
(山梨県総合農業技術センター：馬場久美子)
- ・ペーパーポット技術への生分解性プラスチックの活用
(日本甜菜製糖株式会社：中川卓也)
- ・ポスターセッション2
生分解性マルチフィルムと分解酵素を用いた野菜の生産



分解酵素処理後、
一晚経過した生分解性
マルチフィルムの様子。
白く見える部分は、
酵素を散布処理した部分。



参加申込

こちらのURLまたはQRコードよりお申込みください。

締切: 令和6年2月29日(木)

<https://www.naro.go.jp/event/list/2024/02/161316.html>



本シンポジウムで紹介する成果は、イノベーション創出強化研究推進事業「畑作に省力化に資する生分解性プラスチック分解酵素製造技術と生分解性農業資材利用技術の高度化」(委託元：生物系特定産業技術研究支援センター)により得られたものです。

事務局：農研機構農業環境研究部門 気候変動緩和策研究領域
革新的循環機能開発グループ 上級研究員 植田 浩一
(〒305-8604 茨城県つくば市観音台3-1-3、E-mail: 0308sanka@ml.affrc.go.jp)

主催：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

後援：農林水産省、日本バイオプラスチック協会(JBPA)、農業用生分解性資材普及会(ABA)

